

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	百貨店（営業担当）	・ギフトシーズンが到来し、好調に推移する見込みである。またトレンドの変化により、客の手持ちにない商材が動くため、良くなる。
		ゴルフ場（従業員）	・9、10月の予約は既に昨年実績を上回っており、見通しは非常に明るい。県外客が増え、宿泊客が非常に増えている。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・秋物についての問い合わせが多く、客の反応も良いため、秋物商戦は好調に推移する。
		スーパー（店長）	・客は新製品や健康関連商品に、敏感に反応する。今秋は新製品が多く出品されるため、良くなる。
		スーパー（店長）	・売上の大部分を占める食品分野の単価が落ち着いている。具体的には精肉の売上が良い。野菜も相場は高かったが、順調に推移している。また最近では衣料品も堅調になっており、2、3か月先は安定し、良くなってくる。
		スーパー（総務担当）	・衣料品、食品部門が好調に推移しているため、今後も順調に推移する。
		スーパー（経理担当）	・生鮮関係の動きが良く、全体的にも順調に推移しているため、今後も良くなる。
		衣料品専門店（総務担当）	・客からの商品やイベントに関する問い合わせが多くなってきている。今後の売上に期待できる。
		家電量販店（店長）	・今後、デジタル放送関連機器の伸びが期待できるので、今よりも良くなる。
		高級レストラン（経営者）	・秋の予約状況を見ると、昨年よりかなり良くなっている。
		高級レストラン（スタッフ）	・客の様子が以前より良くなっており、今後の予約等も順調に推移する。
		観光型ホテル（経営者）	・昨年は愛知博の影響で九州・長崎県の来客数は減少していたが、今年は多少増える。
		都市型ホテル（スタッフ）	・9月以降の予約状況が良い傾向にある。
		タクシー運転手	・人の流れは大分良くなっており、単価が上向けば、景気は少しずつ良い方向に向かっていく。
	変わらない	商店街（代表者）	・商圏内にスーパーが次から次に開店しており、毎日のように新聞の折込が入っている。商店街は客を取り込む手段がないため、来街者数は減少の一途をたどる。
		百貨店（売場主任）	・秋冬物の衣料品で消費のきっかけになるようなヒットアイテムがないため、良くはならない。
		百貨店（営業担当）	・正価販売品の売上がバーゲン時の売上を上回ったほか、中元ギフトセンターでの1人当たりの買上金額、個数、単価等もほぼ前年確保している。しかし必要な商品以外は購入しないという傾向は続いている。
		百貨店（営業担当）	・原油価格の高騰や社会保障費の増大等により消費マインドが上がらず、客の購買意欲が低い。
		百貨店（販売促進担当）	・富裕層の購買は引き続き底堅いが、一般消費者の買上に勢いが感じられなくなっている。
百貨店（販売促進担当）		・昨年同様の販促を行っても、売上は前年比97%と下落傾向が続いている。	
百貨店（売場担当）		・8月の来客数は前年比98.1%と、ここ数か月で若干回復している。売上は衣料品、食料品のウエイトがかなり大きく、それぞれ前年比100%を超えているため、そのまま推移する。ただ原油価格の高騰等による消費マインドの低下が懸念される。	
スーパー（店長）		・今後、競合店の出店も計画されており競争が激化するため、良くはならない。	
スーパー（総務担当）		・客の様子をみると、原油価格の高騰により消費マインドが低下する一方である。	
コンビニ（販売促進担当）		・配達等の物流費がかなり利益を圧迫しており、厳しい状況が続いている。	
衣料品専門店（店員）		・客単価が低くなっており、厳しい状況である。客の様子を見ると、消費マインドは依然低く、今後もこの状況が続く。	
家電量販店（店員）		・パソコンの新製品が次々に発表され、来年にならないと新しいOSが出てこないため、買い控え等が起こる。	

		家電量販店（企画担当）	・客の給与も賞与も前年より上がっており、購買意欲が高いため、今の良い状況のまま当面は推移する。
		乗用車販売店（管理担当）	・原油価格高騰に加え、金利の上昇もあり、客の消費マインドは低下している。
		スナック（経営者）	・来客数に大きな変動がなく、今以上の客単価アップも望めない。
		観光型ホテル（スタッフ）	・長崎では4月から半年間「長崎さるく博'06」という体験型博覧会を実施しているが、浸透性・認知度が低くほとんど経済効果がない。一部のビジネスホテルの稼働率は少し上がっている。
		旅行代理店（従業員）	・インドネシア・マレーシアなど東南アジア路線の連休がマイナス要素となっている。国内旅行の予約は前年を上回る勢いである。猛暑と単価の高い8月を避ける傾向が強まっている。
		旅行代理店（業務担当）	・東京方面の国内旅行パッケージの単価が下がっており、売上が伸びない状況が今後も続く。海外旅行パッケージも売上が落ち込んでおり、回復の兆しが見えない。
		タクシー運転手	・連休があり、会社関係の予約も順調に推移しているため、良くなる。
		美容室（経営者）	・秋はお洒落シーズンであるが、今春や夏場の低迷や起爆剤になる商材もないため、秋の繁忙期も例年より低調に推移する。
		美容室（店長）	・現在、新規の客が少しずつ増えている。
	やや悪くなる	百貨店（営業担当）	・秋口にかけて、例年よりファッション関係の動きが鈍い。一方で美術や時計等の高額品が一部で売れているが、全体を引っ張るほどではない。ファッション関係が上向きにならないと全体は良くならない。
		スーパー（店長）	・ガソリンの価格高騰により生活費の切り詰めに考えている客が多い。
		スーパー（企画担当）	・11月中旬に大型商業施設が開店するため、来客数、客単価ともに大きく影響を受け、厳しくなる。
		コンビニ（エリア担当）	・原油価格の高騰によりガソリンを筆頭に他の商品の値上げが考えられており、コンビニエンスストアの主要商品である弁当、総菜等の購買意欲がなくなる。
		家電量販店（店員）	・企業の総需要に比べて供給量が多い。薄利多売方式になり、さらに利益が上がりにくい様相になっている。
		自動車備品販売店（従業員）	・近隣に大型商業施設がオープンするため、競争が激化し厳しくなる。
		住関連専門店（経営者）	・原油価格の高騰により仕入れ商品の値上がりが始まっており、売価に転嫁できず厳しい。
		一般レストラン（スタッフ）	・紅葉のシーズンになり県外客は増えるが、財布のひもは固くなっており、今年も厳しい状況である。今月はかなり好調に推移したが、この状況は続かない。
		通信会社（業務担当）	・客の買い控え傾向に加え、10月24日から始まる携帯電話の番号ポータビリティにより、来客数および販売数が少し落ち込んだ。
		テーマパーク（職員）	・予約状況が例年に比べて悪い。
		住宅販売会社（従業員）	・ゼロ金利解除、貸付金利の上昇でロ-ン金利が上がることに加え、都市圏にマンション建設が相次いでおり、分譲関係の住宅の動きが悪くなる。
	悪くなる	商店街（代表者）	・中心街のアーケード内には人が少なく、空き店舗も埋まらないままになっている。タクシーも空車が多く、佐賀駅でも待ち時間が2、3時間であると聞く。飲食業も大変悪く、安い居酒屋でさえも四苦八苦ししている。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・行楽シーズンに入り、消費マインドの上昇が期待できる。食品加工会社も秋口は年末年始の仕込みに入り、例年よりは伸びてくる。
		鉄鋼業（経営者）	・受注は順調に推移しており、今後もマンション新築、自動車関連の新工場、IT関連工場の増設、九州新幹線北部ルートなどの建築物が控えており、これらに必要な資機材の需要は堅調に推移する。
		電気機械器具製造業（経営者）	・客の新規開拓、新しい仕事の引き合いもあり、現状よりは良くなる。
		建設業（従業員）	・大型物件の見積件数が増加しており、その中で数件の受注もできた。最近では養護老人ホームやマンションの案件が多いが、現場管理者の数が不足している。

	建設業（総務担当）	・区画整理地域での集合住宅の建設が進んでいるため、受注状況が良い。	
	広告代理店（従業員）	・折込枚数が再び上昇しており、受注状況も活発になった。地区的には八幡西区の折込枚数が著しく伸びている。1つには東田地区の商業施設が一部完成したことにもよるが、その他の地区も順調に伸びていることを考えると、今後も消費活動には期待が持てる。	
変わらない	繊維工業（営業担当）	・原油価格の高騰により単価は少しずつ高くなっているため、消費マインドが低下し、購買力が下がる。	
	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・これまで、案件状況から景気回復を感じていたが、この1か月は伸び悩んでいる。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・半導体電子部品関連は、各業者共にフル操業の状況である。電子部品関連並びに精密機械部品関連も同様な動きであり、10月くらいまでは今の状況が続く。	
	金融業（得意先担当）	・金利上昇に伴い、個人の住宅ローンの駆け込み需要があるが、企業では金利が上がる前の資金確保といった動きが見られる。しかしながら景気が上向いた感の資金需要ではない。	
やや悪くなる	金属製品製造業（企画担当）	・好転する材料が見当たらず、逆に原油の高止まりによる関連製品の値上がり等が懸念される。	
	輸送業（従業員）	・軽油代が上昇しており、他のコスト削減努力で補えない状況が当社および荷主に顕著に現れている。	
	輸送業（総務担当）	・荷動きが悪いままで推移している。全種類の商品の荷動きが悪く、しばらくこの状態が続く。	
	金融業（営業職渉外係）	・原油価格の高騰による消費者への負担や金利上昇による企業への負担が増加しており、厳しい状況である。	
	広告代理店（従業員）	・売上獲得競争が激化しており、受注価格は自然と下がっている。	
	悪くなる	-	-
雇用関連	良くなる	民間職業紹介機関（職員）	・企業の採用意欲は年末に向け、上昇傾向にある。若年層から中堅、管理職まで幅広い需要が見込める。
		民間職業紹介機関（支店長）	・営業販売系の求人増加傾向がますます顕著になってきた。供給力を確保しないと需要に追いつかず、需要増が価格上昇にもつながってきた。
やや良くなる		人材派遣会社（社員）	・大手商社を中心に派遣から直接雇用への動きが感じられる。また例年夏期休暇等もあり夏枯れ感があるが、今年は盆の週後半になっても活況であり、夏枯れを感じない。また、雇用が増加傾向にあるものの、時給など雇用条件の改善策が見られない。
		職業安定所（職員）	・大型商業施設のオープンに伴い、採用計画が出来上がり、また既存店も増床等で採用が活発になっている。
		職業安定所（職員）	・誘致企業の進出が決定し、大量求人が見込まれる。
変わらない		求人情報誌製作会社（編集者）	・当業界では9～11月が繁忙期であるが、最近では求人が同業大手に一極集中しているため、思うように求人件数が伸びない。
		職業安定所（職員）	・心配された原油価格高騰による解雇者等が出ていない。学卒求人も昨年以上の申込が予想される。
	やや悪くなる		
	悪くなる	-	-